

8. センターを運営する学生スタッフの育成

大学ボランティアセンターの運営形態は大学によって様々ですが、本学のセンターでは、教育職員・事務職員・学生スタッフの三者が協働して運営しています。中でも、学生スタッフは「ピアサポート」という観点から、本学学生のボランティア活動を応援する重要な役割を担っています。

ボランティア相談をはじめとする日常的なコーディネート業務、チラシ整理やメールマガジン、SNSなどでの情報提供、ボランティア活動を始めるきっかけとなる様々な企画など、学生スタッフが取り組んでいることは多岐にわたり、そのためには幅広い知識や経験が必要となってきます。

このことから、センターでは、ボランティア活動を推進していくために、社会課題に対する意識を持ち、社会に働きかけていく力をもった学生スタッフの育成を図るとともに、組織運営力、コーディネート力をつけることなどを目的として、学生スタッフへさまざまな研修の機会を提供しています。

事業名	銀河鉄道 VNC ～輝け学 STARS ☆☆☆～ 目的地点はココココッ！オリテ合宿2015			
日時	2015年5月9日（土）12時30分～10日（日）16時00分（一泊二日）			
場所	龍谷大学セミナーハウスともいき荘			
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター			
参加人数	99名（学生スタッフ93名・教職員6名）			
企画メンバー （学生スタッフ）	西村若菜（理工3） 岡本龍吾（理工2） 田ノ上優光（文学2）	福田七海（社会3） 田村奈生（国際2） 三戸部香帆（政策2）	黒瀬智加（経済3） 高間美穂（社会2）	依田匡史（法学3） 石川真帆（法学2）

1. 経緯・目的

オリエンテーション合宿は、新スタッフがセンターの活動を知る良い機会となり、上回生スタッフにとってもメンバー全員で活動を振り返り、向上心を高める重要な合宿となる。そこで下記の（Ⅰ）～（Ⅳ）を目的として行ったが、国際文化学部学生スタッフの移転のある今年は、特に（Ⅳ）に重点を置き、合宿を行った。

- （Ⅰ）ボラセン・ボランティアについて理解・再認識する。
- （Ⅱ）学生スタッフとしての役割・目的を知り、ボラセンという社会の一員としての自覚を持つ。
- （Ⅲ）今後の組織運営をより良くするきっかけをつくり、ひとりひとりのモチベーションの向上を目指す。
- （Ⅳ）深草・瀬田、両キャンパスで一つのボランティア・NPO 活動センターであるという一体感を高め今後の活動に活かす。

今回の合宿では「銀河鉄道 VNC～輝け学 STARS ☆☆☆～ 目的地点はココココッ！オリテ合宿2015」というテーマを設定した。ボ

ラセンには様々な個性が輝く星＝学生スタッフがいる。その一つ一つの星を線路で結んで銀河鉄道を作ること、様々な個性がボラセンに集まっていることに気づき、また深草・瀬田両キャンパス、そこに所属する学生スタッフは一つであることを改めて考えるきっかけとするためにこのテーマを設定した。

2. 概要

【1日目】

12：30 開会のあいさつ

12：40 アイスブレイク

「Please call me!」

出されたお題に沿って自己紹介をしながら、同じグループになった学生スタッフの名前を覚えた。

13：45 センター理解

当センターのボランティアコーディネーター竹田純子氏を講師に、センターの設置目的や沿革、NPO について学んだ。

16：40 ワークショップ1

「伝える 伝わる 変えてゆく！ 目的

地点は、ここっ！ここっ！」

「ヘイトスピーチ」「アンチボランティア」について2人→4人→8人と人数を増やしながら話し合いの場での発言の大切さについて考えた。

- 21:00 交流会「Who are you? 人間ビンゴ」
新スタッフ、上回生、双方のことを知ることができるゲームをした。

【2日目】

- 7:40 朝のレクリエーション
「始発列車、出発進行〜！」
2日目のワークに集中してもらえるように体を動かすレクリエーションをした。
- 9:30 ワークショップ2
「1つになろう！ ～知りたいんです、あなたのことが～」
深草、瀬田両キャンパスのいいところを知ると同時に、ボラセンは一つであることに気づくワークを行った。
- 10:40 ワークショップ3
「出発進行！ コーディネートレイン」
ボランティアコーディネートの模擬実践を通して、新スタッフはボランティアコーディネートとは何かという基礎的な部分を学び、上回生は原点に戻り、コーディネートについて改めて学ぶワークを行った。
- 13:20 ふりかえり
「つながろう！ボラセン鉄道☆」
ミーティング中の良くない態度について、この二日間のワークを通して学んできたことから、自分自身は/全体では何ができるのかを考えるワークを行い、これからの活動への意識を高めた。
- 15:30 閉会の挨拶・記念写真撮影

3. 参加者の声・得られた成果など

【ワーク1】

- ・自分で意見を考え、その意見を人と共有することの必要性和難しさがわかった。
- ・ボランティアは何らかのきっかけで、自分から「やってみよう」と思う気持ちを大切にすることが重要であると思った。
- ・自分の意見は堂々と伝え、相手の意見は全部聴く。当たり前なことだけどすごく大切なこ

とだと思った。

【ワーク2】

- ・オリテ合宿のように交流し、意見交換し、議論できる場をもっと増やしていかなければならないと思った。
- ・深草・瀬田両キャンパスの良いところを互いに学び、成長していきたいと思った。
- ・キャンパスは違っても、同じ学生スタッフとして活動していく上でRevolutionを起こせたら何倍もすばらしいセンターが完成すると思った。

【ワーク3】

- ・コーディネートをする上での相手がボランティアに行きたくなるような話し方や説明の仕方を先輩から学ぶことができた。
- ・コーディネートのあり方は人それぞれだけれど、それは“自分らしく”というだけでなく、相手の思いや考え方などによっても異なるし、場合によって見極めていくことが大切。
- ・何もわからない新スタッフを相手に自分に足りない未熟なところを発見できた！

【交流会】

- ・深草・瀬田、1回生～4回生、関係なく一緒になって笑ったり喜んだりできたので良かった。
- ・みんなの雰囲気良かった！
- ・もう少し交流する時間が欲しかった。
- ・新スタッフと話をする時間や、機会が少なかったのもう少し増やして欲しかった。

4. 学んだこと・今後の課題

今回、合宿を通して、ボランティアやボラセンについて、新スタッフも既存の学生スタッフもより深く学ぶことで、ボランティアやボラセンについて理解し再認識することができた。

また、発言することの大切さやコーディネートについてのワーク、センターに関する講義など、各ワークから学生スタッフのボラセンにおけるの意味や、学生スタッフとしての役割目的を知ることで、自分たちがボラセンの一員であるという自覚を持ち、今後のボラセンの活動へのモチベーションを高めることができた。

深草・瀬田両キャンパスの学生スタッフ同士で交流する場面や、今後両キャンパス合同で何か新しい企画を立ち上げたいなどの意見が挙がるなど、この合宿を通して今回の目的の一つである「両キャンパスが一つであるという一体感

を高めること」ができた。

今後の課題としては、今回の合宿でできた、両キャンパスは一つであるという一体感をどのように両キャンパスの学生スタッフの活動に活かせるかであり、オリエンテーション合宿が終わってからも学生スタッフの活動のフォローに入り、引き続いて目標を達成できるようコアー同活動を続けていきたい。

ともいき荘宿泊費(1名1,029円名分) 79,232円
合計 155,850円

〈報告者：西村 若菜・依田 匡史・福田 七海〉



合宿中の様子

5. 経費

消耗品 3,458円
交通費補助(上限2,000円7割) 73,160円

事業名	ボラセンレポリビューション2015 <small>にーまるいちごー</small> (深草夏合宿)
日時	2015年9月10日(木)12時30分～9月11日(金)16時00分
場所	大阪国際ユースホステル・大阪府羽衣青少年センター
実施主体	ボランティア・NPO活動センター(深草)
参加人数	53名
企画メンバー	田中奏多(文学4) 藤野優祐(経済3) 佐野 颯(経済3) 永翁ふみな(文学2) 大矢誠志(法学2) 南山裕紀(政策2) 原 弘樹(経済1) 江島美紀(文学1) 伊藤万莉(経営1) 藤原 純(文学1) 辻 祐児(法学1)

1. 経緯・目的

現在深草キャンパスでは、学生スタッフの人数の増加や運営の面で学生スタッフの役割分担を改革するなど、活動の幅を広げようとしている。そのためには、学生スタッフが活動の全体像を知り、自分の役割を活かそうとする意識を持つことが必要だと考えているが、その意識がまだまだ薄い面があると感じている。この課題の解決に向けて、学生スタッフが活動内容を再確認し、活動するうえで自分にはどのような知識が必要なのかを知り、どのような役割を担えるのかということを考えられるような合宿を企画した。

2. 概要

【1日目】

12:30～14:00 オリエンテーション
前期の活動の振り返り
14:10～16:40 ワーク①(活動の全体像の共有)
17:00～19:00 BBQ

19:00～21:00 入浴
21:00～23:00 交流会
24:00 就寝

【2日目】

7:00～7:30 朝のレクリエーション
7:45～8:30 朝食
9:30～11:30 ワーク②(自分が担いたい役割)
12:00～12:45 昼食
13:00～15:30 合宿のまとめと後期に向けて
15:30～16:00 クロージング
16:00 解散

○ワーク内容

・前期の活動のふりかえり

- ①企画のふりかえり
- ②活動班のふりかえり
- ③各スタッフが個人で参加したボランティアについてのふりかえりを行った。

・ワーク①(活動の全体像の共有)

学生スタッフの中での活動に対する意識の差

を埋めるために以下の内容を行った。

- ①活動の中での気づきの共有（新スタッフ）
シフトや班活動の仕事など前期で学んだことを確認
- ②活動の改革の中での気づきの共有（上回生）
活動の改革の中で、「何が」「なぜ」「どう変わったのか」を考えた。
- ③①②を踏まえ、更に活動の改革を行っていくために、特に班活動を例にどのような活動が出来るのかを考えた。

・ワーク②（自分が担いたい役割）

自分が担う役割について考えるために、まず、自分のことを知る必要があると考え、以下のように行った。

- ①自分を知る
心理テストを使って自己分析を行い、今まで知らなかった自分を知る。
- ②役割に気づく
活動を行う上で、必要な役割をピックアップし、その中で自分の担いたい役割を考えた。そして、その役割に“なぜなりたいたのか”“なぜなれていないのか”“なぜできている人がいるのか”を考え、自分に足りないものが何であるかを考えた。

・合宿のまとめと後期に向けて

現在進められている企画の進捗状況と後期に実施予定の企画の情報共有を行った。その後、合宿で学んだことを振り返り、後期の目標を立てた。

3. 参加者の声・得られた効果

- ・集団の中で自分の役割を考えるのは難しいけど、考えずになんとなく過ごしていたらもったいないし、自分は成長しないと思いました。
- ・すべてのワークを通して、後期の活動（世代交代までの活動）をどうしていくか、考える場になったし、新たな自分や目標を見つけられたと思う。
- ・自分の役割を今まで見つけられずにいましたが考えてみればできることはあるのだと思えました。

全体として、今まで漠然としていた自分たち

が日々の活動で担う役割について、各回生で考えられたと思う。後期に向けての目標を立てる際に、シフトで使用している名札の裏にそれぞれの目標を書くことで、それぞれが活動にどのようにかかわっていくのかを目に見える形で残すことができ、日々の活動で意識できるようになったと感じている。

○反省点

- ・情報共有の徹底
→遅れて参加するなど、バラバラに入ってくる情報を誰に集約するのかなどを決めておけば、企画を進行する時に混乱がなかった。
- ・参加費の徴収を事前に行えば良かった。
→当日の事務作業を減らすため。

4. 学んだこと・今後の課題

今回の夏合宿のテーマである「活動の中で自分が担える役割を考えること」は、活動の全体像の共有と、自己分析・組織の中での必要な役割を考えることを通して達成できたと思う。この合宿で得られたことを日々の活動に生かしていくことで、現在行っている活動がさらに活発になっていけると感じている。そのために、合宿で気づいた役割について、持続的に考えていくとともに、さらなるパワーアップを目指して、取り組むことを今後の課題にしたい。

5. 経費

消耗品	2,793円
交通費補助（上限2,000円7割）	71,550円
宿泊補助	104,000円
合計	178,343円

（報告者：南山 裕紀）



事業名	夏合宿（瀬田）カタチの違う1ピース ～参画△してできる!1D パズル～				
日時	2015年9月14日（月）12時00分～9月15日（火）16時00分				
場所	近江希望が丘ユースホステル				
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター（瀬田）				
参加人数	学生スタッフ38名 コーディネーター1名				
企画メンバー （学生スタッフ）	小林陽太（社会4） 田川智也（理工2）	小牧由美（社会3）	岡本龍吾（理工2）	高間美穂（社会2）	川辺実和（農学1） 藤村一樹（社会1）

1. 経緯・目的

瀬田キャンパスのセンターでは、今年度大きな変化があった。国際文化学部の移転に伴う学生スタッフの移動があり、農学部の新設で新たな価値観を持つ学生スタッフが仲間に加わった。今までにない変化の中で、学生スタッフの活動に対する意識やモチベーションも様々で個人差が大きいのが現状である。

そこで、後期に向けてモチベーションアップを図るため、やりがいを感じることができる環境づくりやチームワークの再構築を行うことが必要だと感じた。

まず、相手の意見を聴く姿勢をつくり、相手の価値観を受け入れ、お互いの価値観大切にすること、次に、組織全体のフォロー体制の基盤をつくり、それぞれの価値観を尊重しながら議論しあうといった‘当たり前’の意識を培っていかうと考えた。さらに、活動に“参加する”のではなく“参画する”組織づくりを目指すことを目的とした。

学生スタッフのカタチの違う価値観をジグソーパズルのピースとして表現した。カタチは違っても、全員が同じ方向に向かって活動していけるような組織づくりを目指した合宿づくりを行った。

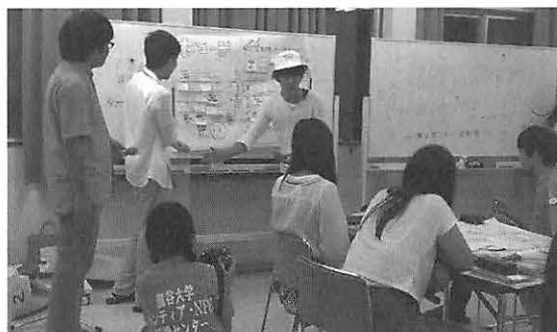
2. 概要

【1日目】

- 12：00 集合
- 13：00 開会式、アイスブレイク「みんなでつくるう ○○ストーリー」
- 14：15 ワークショップ「前期の自分はドンウォーリー、後期の自分はビーハッピー」
- 学生スタッフの全体と個人の目的目標と前期の活動を振り返り、そこから、上級生と1回生がより親密に会話してもらうために他己評価をした。
- そして、小グループに分かれ、後期

から学生スタッフ自身が活動においてできることを考え、各グループが発表するという内容を行った。

- 16：55 ワークショップ「I LOVE コーデ～コーデに恋をしてみました～」
- 学生スタッフがコーディネートシフトの中で行う活動に対して、良い面と改善すべき点の両方を考えることで、コーディネートの魅力を知ってもらい、理解を深めてもらう。また、コーディネートを好きになり後期からより意欲的にコーディネートを行ってもらうことを目的として行った。
- 18：25 夕食、入浴
- 21：00 交流会「夏合宿史上最大のムチャ振り」
- 22：00 1日目終了



【2日目】

- 7：30 朝食
- 8：30 アイスブレイク「アサ着火ファイヤー！みんなで動いてぴったんこ♪」
- 10：00 ワークショップ「カタチが違う1ピース～思いを伝えてダブルタップ～」
- 「結婚観」を題材にディスカッションを行い、グループのメンバーの価値観の違いを受け入れることを促すことで、チームワークの向上を図った。また、相手の意見や考えを聞き、相手の価値観に配慮をした上で、自分の意見などを積極的に発信することを目的に

して行った。

11:30 昼食

12:30 ワークショップ「Open My Heart
～はばたけ後期へ～」

6人1グループの班ごとにコミュニケーションを通じて、お互いのことを知り、尊重し合うことで、話し合いの活性化かつ円滑化を図ることを体験的に行うことを目的として行った。

14:40 ワークショップ「君の力が必要だ！みんな目指そう！Direction！」

学生スタッフ間で自分が必要とされていることを知ってもらうため、小グループの中で、グループの一人について、褒め合う「かげほめ」を行い、これからの活動目標を設定した。そのことにより、後期からのモチベーションアップ、ひいてはワークショップを通じて気づいた自分の長所を基にして、後期からのセンターの活動に参画できる学生スタッフになってもらうことを目的とした。

15:30 閉会式、アンケート記入

16:00 終了



3. 参加者の声・得られた成果など

- ・「模擬コーデ」、「本番コーデ」、「新規情報シート」、「ボランティアチラシのチェック」など、改めてセンターでの役割に関して考えることができた。
- ・自分自身の後期につながる活動をしっかり振り返ることができた。

- ・自分の認められている部分を認識でき、これからの自信が持てた。
- ・学生スタッフそれぞれのちがうピースを、「ボラセン」という組織で組み立てて行きたい。
- ・昨年の内容と似たような内容だったが、昨年に比べて価値観のワークの見方が異なって見えた。
- ・ボランティアの魅力を改めて深く考えて、自分の思っていること以外にも知ることができたので、今後の発信方法もみんなでき共有できてよかった。

4. 学んだこと・今後の課題

- ・合宿を企画し、実施するにあたり、ワークなどの時間配分の延長や企画メンバーの役割分担の共有不足といった改善すべき点に関しては、年度末の春合宿や、来年の夏合宿に引き継いでいくなど、今後の活動に活かしていく。
- ・学生スタッフが自分と活動を共にする学生スタッフの長所をお互いに認めるワークを行うことで、価値観の違いに気づき、チームワークを築ききっかけになったとアンケートから感じられた。

さらに今回の夏合宿で学生スタッフが進んで発信しており、当初から目的としていた「活動に参画する」ことが達成できたように感じた。

- ・夏合宿のワークを通じて個々人が感じたこと、学んだことを後期からの活動に活かせるように、放課後のミーティングなどを利用し、簡単なワークなどを行い、学生スタッフのモチベーションの維持を図りたい。

5. 経費

消耗品	3,539円
交通費補助（上限2,000円7割）	14,280円
宿泊補助	76,000円
合計	93,819円

〈報告者：岡本 龍吾〉

事業名	深草春合宿ボラセンリフォーム劇的ビフォー&アフター ～なんということでしょう～
日時	2016年3月8日(火)～3月9日(水)
場所	龍谷大学セミナーハウス ともいき荘
実施主体	ボランティア・NPO活動センター(深草)
参加人数	学生スタッフ27名 コーディネーター1名
企画メンバー (学生スタッフ)	小川諒也(国文2) 藤岡 舞(経済3) 南山裕紀(政策3) 坪下大介(文学1) 原 弘樹(経済1) 延安美菜(文学1) 乗矢隆良(政策1)

1. 経緯・目的

- ①1年間の振り返り、活動の評価と反省を行い、来年度に向けた活動の改善を図る。
- ②多くの学生を擁する深草キャンパスでは学生スタッフそれぞれのセンターへのかかわり方には差がある。今後他大学や地域と交流する機会も増えてくるので、この機会に新年度の基礎固めとして、学生スタッフとしての基礎知識の学び直しと共通認識の醸成を図る。
- ③普段忘れがちになるが、活動する中で一番大切な「なぜボランティア活動するのか」ということを新年度になるタイミングでひとりひとりが再考する。

2. 概要

【1日目】13:00 アイスブレイク

13:30 一年の振り返り

14:50 ワーク①【何故あるのか、何故やるのか ～みんなで考えよう！学生スタッフの活動～】

学生スタッフが日頃行っている活動(シフト・班活動・企画)について、「活動の理由」を考え、「学生スタッフの存在意義」について考えた。

17:30 夕食、風呂

20:45 交流会

23:00 就寝

【2日目】

8:00 朝食

9:00 朝のレクリエーション

9:45 ワーク②【普段意識しないもの】

自分がセンターでできる事を考えるために、まず、「自分にとってのセンターとは」ということを考えた。自分の経験を仲間と共有しながら、自分ってどんな人なのだろうという事を考え

ることで、今の自分の原動力、これからの学びについて考えた。

12:15 昼食

13:15 まとめ

2日間の合宿の振り返りと、「理想とするセンター像」を考えた。センターとして、個人として、今後、この理想を目標に切磋琢磨しようと全員で心を合わせた。

15:30 クロージング

16:15 解散

3. 参加者の声、得られた効果

- ・一年間の活動を振り返ってできた事、できなかった事を再確認する事ができた。
 - ・自分のなりの問題点を見つける事ができたので、来年度にむけて改善していきたい。
 - ・なぜボラセンに入ったのか、ということをしかりと考える事ができた。また文字にし、仲間と共有する事で思いを強くすることができた。
 - ・学生スタッフの役割について改めて見直せた。
 - ・センターのあるべき理想を考える事で、自分の活動の指針を確認できた。
 - ・センターをより良くするために、具体的に何をすれば良いのか考える事ができた。
 - ・「なぜ」を考える事で、自分の思いの原点をふりかえる事ができた。
 - ・普段の活動の理由を考える事で、学生スタッフが存在する意味や活動の大切さを感じる事ができた。
- (全体として)得られた効果として、振り返りをする事で、この1年でできた部分、できなかった部分の確認をする事ができた。また、学生スタッフが活動する理由、意味を考える事で、組織として認識を統一する事ができた。

個人がボランティアをする意味、センターの学生スタッフを続ける意味を考える事で、自分のボランティアの原点を見直す事ができた。

4. 反省点

(企画メンバーとして)

- ・ワークに集中していたので、全体の流れの中で、間延びしたところがあった。ワークだけでなく合宿全体のリハーサルが必要だと思った。
- ・当日、急遽変更したことを企画メンバー同士で共有できていなかった。
- ・ワークに慣れていない参加者が一度聞いて理解できるようなわかりやすい説明が必要だった。

(全体として)

ワーク以外の全体的なリハーサルが必要だった。ワークと食事の間での時間の間延びがあったことや、余裕を持った時間設定をしたからだと思う。また、ワークを行うために必要な基礎知識を理解していないスタッフがいるという事を合宿後に気づいた。この点の配慮は今後必要だと思う。

5. 学んだこと・今後の課題

企画メンバーの担当者は、2つの事を意識してワークを作っていた。

- ・組織としての知識の統一
- ・活動する原点をふりかえる

この合宿を企画、実施する中で学んだ事

- ①ワーク自体が単調である事から、飽きてしまうのではないかという恐れもあったが、シンプルだからこそ、ワークに慣れて、より深いところまで話をする事ができていた。
- ②合宿を通して組織のつながりの絆を感じた。ワークを行っているときに、回生のちがう学

生同士が、お互いに意見交換し相手の話から学ぼうという姿勢が感じられた。回生を超えた対等な意見交換の場ができていたと思う。それぞれの参加者が相手から学ぼうという姿勢、相手を尊重する組織の中でのつながりが私たちの組織にはあると思う。この絆を今後も深めていきたい。

(今後の課題)

- ①情報共有のミスや、情報不足があったので、いつミスが、どこが不足していたのかを確認してミスと情報共有不足をなくしていきたい。また、ワーク以外のところのリハーサルも行っておけば、当日の流れを把握しやすいと感じた。
- ②参加できなかった学生スタッフに対するアプローチとして、事後学習会を行う。春合宿のワークを行う事で新たに出てきた課題に対する取り組みを行う。

6. 経費

交通費補助 (上限2,000円7割)	11,280円
ともいき荘宿泊費 (1名1,029円 27名分)	27,783円
消耗品	2,970円
合計	42,033円

〈報告者：小川 諒也〉



事業名	瀬田春合宿2016 ～共有そして発展へ～
日時	2016年3月8日（火）11時15分～9日（水）17時00分
場所	滋賀県彦根市荒神山自然の家
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター（瀬田）
参加人数	学生スタッフ 33名・コーディネーター 1名
企画メンバー (学生スタッフ)	藤村一樹（社会1） 佐久間涼（社会2） 中村香菜（社会2） 福納知香（社会2） 橋本直樹（社会2） 森岡尋仁（農学1） 河野沙織（社会1） 矢野佑磨（理工1） 山内辰太郎（理工1）

1. 経緯・目的

センター（瀬田）では現在43名の学生スタッフが在籍している。今回の春合宿では以下3つの目的のもと合宿を行った。

- ・学生スタッフ一人ひとりが今年度の活動を振り返るとともに来年度の活動目標・計画をたてるきっかけを作る。
- ・学生スタッフとして活動していく中でわからないことや、先輩から後輩に引き継いでいない部分を見つけ、解決する。
- ・春合宿を機会に学生スタッフのチームワークを高め、今年度以上に互いに協力し合える関係づくりを深める。

2. 概要

【1日目】

- 11:15 集合、移動
- 12:00 施設のオリエンテーション
- 12:30 昼食
- 13:00 開会式、アイスブレイク「Let's コンセンサス」
- 14:00 長所ワーク
「ボラセン春の相談会♪」
自分の長所と短所を知って、互いの長所を伸ばしてもらうこと、短所を補ってもらって助け合い、苦手なことにも挑戦してもらうことで、そこから協力体制を高めることを目的とした。
- 15:25 「楽しい」について考えるワーク
「うれしい☆たのしい☆だいすき」
さらに次年度からもチーム全体で意欲的に活動できるように、センターの活動の中で体験した自分が楽しいと感じることや仲間の楽しいと感じることをミッションラリー形式で再発見・共有することを目的とした。
- 18:00 夕食、入浴

21:00 交流会「この人だ～れ？」

22:00 1日目終了

【2日目】

- 7:30 朝食
- 8:15 アイスブレイク「グリムジェスチャー」
- 9:00 班活動振り返りワーク
「秘伝・振り返り書」
今後一層横のつながりを意識した班活動を行っていけるよう今年度の班の活動を振り返り、他の班と共有などを行って次年度の班活動について考えることを目的とした。
- 11:10 企画ワーク
「Projects are ours」
今年度に行った企画の振り返りを通して、企画は学生スタッフ全員で運営していくということを再認識することを目的とした。
- 12:00 昼食
- 13:00 コーデワーク
「Necessity is the mother of invention.」
学生スタッフがコーディネート活動においてわからないことをなくす、解決する。また、学生スタッフがコーディネートを行っている意味を考えることを目的とした。
- 14:35 目標振り返りワーク
「目標ワーク」
次年度の全体目標を決めるミーティングにつながるように、このワークで今年度の目標を振り返り、評価することを目的とした。
- 16:10 アンケート記入、閉会式
- 17:00 解散



3. 参加者の声・得られた効果など

- ・長所のワークショップでは、自分では気づかない自分の一面を知ることができてよかった。また、一緒に活動する仲間のことも考えられるよい機会になったと思う。同回生同士が日常では言えなかったお互いの長所・短所を伝え合うことで各々が悩みを共有して次へつなげられるきっかけになった。
- ・楽しさについて考えるワークショップでは、ラリー形式のワークが新鮮でよかった。また、チームワークもつき、仲間意識が強くなったと思う。
- ・班活動を振り返るワークショップでは、他の班とのコラボレーション案を生み出せてよかったし、自分の班に対して、他の班からの意見をもらったのは貴重だった。
- ・企画について考えるワークショップでは、それぞれの企画が持つ問題を共有すると同時に解決の糸口も見えた。

4. 学んだこと・今後の課題

- ・2日間で6つのワークショップを行い、今年度を振り返るだけでなく合宿のテーマにもしていた「発展」についても考えられ、次年度の活動を見据えた話し合いができた。
- ・先輩から後輩へ引き継いでいないことを発見

し解決するという目的でワークショップを行った。今後も日常活動で新しい役割を担う学生スタッフにしっかり伝えていきたい。

- ・この春合宿で学生スタッフ同士の協力体制について考えられた。協力体制を構築するには、まだ時間が必要であるが、チームワークについて考え、高めるきっかけになった。
- ・ワークショップの進行では、最初の説明が不十分で戸惑うことがあったり、企画メンバー同士がフォロー不足な場面があったりした。企画メンバーは十分に自信をもって進行ができるようにリハーサルを重ね、当日に臨むことが重要だと感じた。その他、合宿運営上の改善すべき点は今後の合宿に引き継いでいきたい。
- ・今回は合宿の企画に初めて携わる企画メンバーが多かった。学生スタッフがやりがいを持って、より意欲的に活動に取り組めるように企画メンバーで話し合い、考え、学生スタッフに問いかけるという重要な経験をした。この経験を活かしてこれからも切磋琢磨しながら活動に取り組んでいきたい。



5. 経費

消耗品	6,247円
交通費補助（上限2,000円7割）	27,870円
宿泊費補助	46,980円
合計	81,097円

〈報告者：山内 辰太郎、橋本 直樹、中村 香菜〉

外部団体主催の研修会への参加

外部団体が主催する研修会やセミナーに学生スタッフが参加し、そこでの学びをボランティア・NPO活動センターに持ち帰り、組織の運営や企画、ボランティアコーディネートに役立てます。

研修名	大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー2015 全国の学生スタッフと出会おう！学ぼう！つながろう！
日時	2015年9月7日（月）～8日（火）（1泊2日）
場所	セミナー会場：大阪市立青年センター KOKOPLAZA 宿泊会場：新大阪ユースホステル
主催団体	特定非営利活動法人ユースビジョン
全体参加人数	36名（12大学16キャンパス）
参加人数	深草キャンパス学生スタッフ3名、瀬田キャンパス学生スタッフ4名、合計7名

1. 経緯・目的

学生スタッフのリーダー層にとって必要な力・考え方を、他大学ボランティアセンターの学生スタッフと一緒に学び、その後にセミナーでの振り返りも行い、これからの活動をよりよいものにすることを目的に参加しました。

2. セミナー概要

【1日目】

- ①開始、オリエンテーション
- ②アイスブレイク、大学ボラセン紹介
- ③全体会1（ボランティアについて考える）
- ④分科会（コーディネーション/ミーティングについて学ぶ、からそれぞれ選択）
- ⑤交流会

【2日目】

- ①全体会2（ボランティアセンターがある意味、学生スタッフの役割について考える）
- ②各大学ごとのセミナー後の行動計画作り
- ③全体共有
- ④質問、まとめ

3. 参加者の感想

山内 辰太郎

（理工学部 機械システム工学科 1年次生）

私は、今回学生スタッフセミナーにおいて他大学のセンターとの違いを知ることを目的として参加しました。そして、全16のボランティアセンターの学生スタッフとの会話の中で刺激を受けながらも気づくことができました。それは自分のセンターについて理解が浅いと、話を聞いただけで他のセンターを知ることはできないと

ということです。他大学からは2・3回生の人が多く参加しており、先輩方とお話をする機会が多かったのですが、やはり2・3回生ということもあって自身のセンターについてよく理解していて、お互いのセンターについて話をしているときも少し複雑な内容が多く、自分が理解できない部分や、うまく説明できないことが多々ありました。詳しく、分かるように説明してもらうために何度か聞き直したり、はぐらかすような形で相槌を打ったりと、センターについてもっと勉強しておくべきだったという後悔があります。したがって、当初の目的の達成率は低いといえます。しかし、プラスにとれるような気づきもありました。それは、我がセンターの良さについての気づきです。私は当然のように班・係に所属し、企画にも入っています。これは他のセンターの学生には驚かれることもあり、龍谷大学のセンターの一つの魅力だなと感じました。

今回のセミナーを経て、私がいかに無知であるかを実感したと同時に、違う大学の学生との会話には、同大学の学生とだけ交流しては気づかないことも気づけるきっかけになることが分かりました。無知は可能性であると思います。

今後も継続的に他大学のボランティアセンターの学生と交流をしていきたいと思えるセミナーでした。

清田 竜司

（理工学部 機械システム工学科 1年次生）

テーマ別セミナーではコーディネートのプログラムに参加しました。コーディネートを

人、受ける人、そしてその2人を見る人の3人グループで、配られたプリントに書いてあるシチュエーションで実際にコーディネートを行いました。私はこれまで、自分のセンター内の人を相手にした練習としてのコーディネートしかしたことがなく、今回初めて初対面の人を相手にしたコーディネートを行いました。やはり初対面の人とするコーディネートはいつもと違い戸惑いましたが、実際は初対面の人にするものなのでとても勉強になりました。また、コーディネートの中での会話がとても大切だと気づくことができました。会話をすることでお互いの緊張を和らげることができるし、相手の興味のあることを聞き出せれば、そこからその人にあったボランティアを紹介することができるからです。このセミナーで学んだことを、これから行っていくコーディネートに活かしていきたいと思っています。

他大学の学生スタッフと交流することができ、他大学のセミナーを知ることで龍谷大学のセンターについて新たに知ったこともあったので、参加することができてよかったですと思います。

矢野 佑磨

(理工学部 機械システム工学科 1年次生)

今回私たちが学生スタッフセミナーに参加し、終わった後にまず思ったことは2日間がすぐに終わったと感じたことです。しかし、その短い2日間で学んだこと、考えたことはすごく多くて密度が濃い時間でした。

その中でもまずは全国各地から集まったボランティアセンターやボランティアに関わる学生達とお話できたことがいい経験になりました。一人一人がそれぞれボランティアに関わっている理由、熱意などを持っており、いい刺激を受けられ、モチベーションが格段に上がりました。

そしてセンターごとに意見をまとめて発表する機会も設けてくださいましたが、これは本当に緊張しました。しかし、人前で発表することは学生スタッフとしてはもちろん、社会に出ても大切になる技術なので、今回のように会って間もない方々に自分たちの意見を発表する経験は僕たちを成長させてくれたと思います。

そしてなによりコーディネートをやるセミナーがあり、そこでは色々な人のコーディネーション技術を目の当たりにすることができまし

た。ボランティア啓発には不可欠なコーディネーション力を今回得られ、非常に有意義でした。

興味がある人はぜひ参加するべきだと思います。

多田 涼太

(理工学部 電子情報学科 1年次生)

今回のセミナーはたった2日間という短いものでしたが、非常に濃く、充実したものでした。ボランティアとは何かということを一度考える機会にもなり、また、さまざまな地域の他大学のセンターの学生の方と交流することによって、多くのことを学ばせてもらい、良い刺激になりました。

今回のセミナーでは、さまざまなことを学びましたが、その中で私はこれから必要なコーディネーションの技術をいくつか学ぶことができました。それはセンターで学んだものと似たものもありましたが、それとは別のことも学び、とても為になるものでした。コーディネーションでは「聴く」姿勢がとても大事なことだと学びました。

また、今回はこのようなセミナーだけではなく他大学のセンターの学生と交流する機会がありました。交流を通して、彼らが私たちのセンターとは違った環境にあり、強い思いを持って活動していることを知りました。また、メンバーの多い私たちは様々な意味でとても恵まれた環境にあることも知りました。

今回のセミナーは短い間でしたが、非常に多くのことを学ぶことができました。これからはこのセミナーで学んだことを活かしていけるようにがんばっていききたいと思います。

小川 諒也

(国際文化学部 国際文化学科 2年次生)

去年に続き2回目の参加となるユースビジョンの研修であった。去年は学生スタッフになったばかりということもあり、参加することに対して不安を抱えていたが、今回は、立場も状況も変わり、他の大学とのつながりを作る事、他の大学でやっている事を学び、自分のセンターに生かせるものを持ち帰ろうという意気込みで参加した。ワークの休憩時間や、食事、交流会で他大学の学生と話をすると、センターには色々な形があるということを感じた。特に面白

いと思ったことは、関西と関東で違いがあるということ、企画立案が活動のメインであるセンター、コーディネートが中心のセンターという風に、それぞれ特色があるということである。また、大学で抱える悩みなど共通しているものもあり、違う考え方を持つ人と問題の解決のための話をするは大変有意義な時間であった。今後はこの学びを自分の大学での活動に生かしていきたい。

高野 喜暉

(経済学部 現代経済学科 2年次生)

1日目、まず初めに、アイスブレイクを行い、他大学の人と少し交流しました。次に、ボランティアというものはそもそもどういうものなのかについて考えるワークをし、ボランティアの定義を改めて学ぶ事が出来、再確認することが出来ました。次にミーティングについて考えるワークをし、ミーティングにはコンセンサス(合意)が重要であるということを知り、他の人の意見の大切さを学ぶ事が出来ました。(実は、このワークでやった内容がとても面白かったので、自分たちのスタッフミーティングでやってみたくらいと思い、帰ってからさっそく実施しました。学生スタッフはとても楽しんでくれたようです。)夜は、他大学の人と話す機会があり、色々な経験や話を聞くことができ、良い刺激になりました。

2日目は、ボランティアセンターが存在する意味、また、私たち学生スタッフの役割について考えるワークをし、私たちの存在意義を改めて考えることができました。

最後にまとめで、この2日間で学んだこと、今後していきたいことを大学ごとに集まって話し合い、発表しました。

中北 梢

(文学部 哲学科哲学専攻 3年次生)

私は、昨年の深草キャンパスの企画であるアタックボラセンや、渉外班新設、他イベントの参加をきっかけに、他大学の学生スタッフとの交流に魅力を感じていました。今回、関西の学生だけでなく、全国から学生が研修に参加すると聞き、ぜひいろいろな価値観に触れてみたいと思い参加しました。

2日間にわたるワークや交流会を通じて、様々なボランティアセンターの在り方や、強み、悩みを一緒に考え、共有しました。例えば、学生スタッフの所属人数が多い大学と少ない大学では、センター運営の仕方ひとつとっても、長所や欠点が変わってきます。先輩は経験に基づいてアドバイスし、後輩からは新鮮な意見をもらい、さまざまな視点から課題を見直す良い機会となりました。また、この時期は、代表、副代表の交代の時期でもあったので、それぞれがセンターでの自身の役割を意識しており、刺激的な時間を過ごすことができました。

この研修をきっかけに、新しい繋がりも生まれました。その縁を大切に、自分たちのセンターの成長のためにここでの学びを積極的に還元していきたいと思えます。

4. 経 費

深草	参加費補助	15,000円
	交通費補助(上限2,000円7割)	2,560円
瀬田	参加費補助	20,000円
	交通費補助(上限2,000円7割)	5,510円
合計		43,070円

〈報告者：中北 梢〉

セミナー名	大学ボランティアセンター学生スタッフ リーダーセミナー2016 「新年度に向けて、よりよい組織づくり、活動計画づくりの基本を学ぼう！」
日時	2016年2月9日（火）～10日（水）（1泊2日）
場所	セミナー会場：大阪市立青少年文化創造ステーション KOKOPLAZA
主催団体	特定非営利活動法人ユースビジョン
全体参加人数	大学ボランティアセンターで活動している学生のスタッフのうち 2016年度の運営の中核を担うリーダー層 合計32名（14大学キャンパス）
参加人数	深草キャンパス学生スタッフ3名、瀬田キャンパス学生スタッフ4名、合計7名

1. 目的

このセミナーは、リーダー像、組織の運営を学び、新年度の活動をよりよいものにするを目的に実施されました。学生スタッフのリーダー層にとって必要な力・考え方を、他大学ボランティアセンターの学生スタッフと一緒に考え、学びました。

2. セミナー概要

【1日目】

- ①開始、アイスブレイク
- ②大学ボラセン活動紹介
- ③自分たちの組織の状態とチェックする
- ④組織を運営するための基礎知識
- ⑤リーダーシップのあり方を考える
- ⑥交流会

【2日目】

- ①リーダーシップとは何か
- ②セミナー後の行動計画作り
- ③全体共有
- ④質問、まとめ



3. 参加者と感想

小川 諒也

（国際文化学部 国際文化学科 2年次生）

今回、リーダーセミナーで学んだ事は3つある。1つ目にリーダーシップとは何かという事だ。これに参加する前、代表となる前に、自分の理想のリーダー像とはこういうものだろうな

という物は持っていたが、今回、状況に応じてリーダーシップは変化すると説明を受けて、驚きと確かにリーダーシップの像は変化するときがあると思った。2つ目に、代表として同じ立場の人と喋る事で、自分が組織に対してどのように接して道を示していくべきか、また同じ悩みを共有する事で普段自大学について話せない事も話す事ができた。話す事で、自分の悩みを解決する事ができる試したい企画、チャレンジなどを沢山手に入れる事ができた。3つ目は、関西圏のつながり、また全国のボラセンとのつながりを強くする事ができた。このつながりは、困った時頼れる、心強い仲間として今後も仲良くしていきたい。最後に今回のセミナーで学んだ事を自大学ボラセンの運営に生かしていくように努力していく。

田川 智也

（理工学部 電子情報学科 2年次生）

昨年に引き続き、リーダーセミナーに参加した。今回のセミナーでは、組織のマネジメントや目的・目標の形成について学んだ。昨年も参加していたため、自分自身の一年間の活動の振り返りになり、出来ていなかった事を再確認することができた。今年度の目標については、昨年参加したこのセミナーを参考にしたので、これから次年度の目標を話し合う上で、注意点や反省点が見つかり、いい機会となった。

また、各大学のボランティアに関する団体が参加しており、団体が抱える悩みや課題について共有し、自分が所属している団体に置き換えて考え、アドバイスし合うことにより、お互いが高め合う関係を二日間で作ることができた。

セミナーに参加し、改めて代表であるという自覚ができ、今回の学びを普段の活動に活かしていきたいと思った。また、キャンパス同士の普段からの交流は難しいと感じたが、同時に重

要性を感じたので、交流の場を大切にしていきたいと思った。

高間 美穂

(社会学部 臨床福祉学科 2年次生)

「十人十色」な組織の色が見えたセミナーだった。各ワークは違った角度から組織の図を見ることができ、その中で自大学にはないアプローチ方法を発見することができた。1つの事例に対し1つの机を囲み、2日間で知り合った同じ立場にいる仲間とディスカッションするというのは、他では類を見ないほど刺激的な意見ばかりで感化された。過ごす時間が増えるにつれお互いの持っている悩みを共有でき、ともに解決していこうという意識を持つことができたのが印象的だった。各大学の自己紹介からセミナーは始まったが、ワークを通してそこで伝えきれていない自大学の活動を紹介した際、熱心にメモを取る仲間もあり、もちろん今までにない新しい意見を聞いたならば自分もメモをし、お互いに高めあえたのではないかと思う。

このセミナーを受け、組織を担う身とし新たに意識を持つことができたのと同時に、この学びをセンターで活動している学生スタッフ一人ひとりに共有し、共感し、協力体制を固めた組織にしていきたい。

森岡 尋仁

(農学部 食料農業システム学科 1年次生)

2日間「リーダーシップ」について学び、中でも特に印象に残っているのは、組織としての活動をどのようなものにしたいか、そのために、組織の運営、活動の際の本質である目標や目的の共有をしっかりとすることが重要ということだった。

自分たちの組織が何を目指そうとしているのか、その存在意義とは何なのか、その指標たる目的、あるいは大目標、中目標といったものをしっかりと理解し、共有していくことが大事だと感じた。その上でどのように目的を達成していくのか、どうすれば、実現しやすくなるかを考えていかななくてはならないと思う。

今回、このセミナーで学んだことを別の学生スタッフにも伝え、しっかりと共有し今後の活動に活かしていきたい。

藤村 一樹

(社会学部 コミュニティマネジメント学科 1年次生)

学生スタッフリーダーセミナーを2日間受講して、これから学生スタッフとして活動する上で貴重なことを学べた。それはボラセンに合ったリーダーシップだ。僕は中学高校と運動部に所属していた。そこで出会った尊敬できるリーダーは、自ら先頭に立ちどンドンチームを引っ張っていくリーダーや、あまり声には出さずに背中を語りチームを導いていくようなリーダーだった。どの組織においてもそれが理想のリーダーシップだと思っていた。しかし、ボラセンにおける理想のリーダーシップはこれとは違い、チームを引っ張るだけでなく、ボラセンの活動がより活発になるように、メンバーに影響を及ぼしていくことが大切なのだと学んだ。

今回は学んだだけであって、まだ自分のものになっていない。今後、学んだことを意識しながら、これからの学生スタッフ活動に励みたいと思う。

田ノ上 優光

(文学部 哲学科 2年次生)

私は今年で、2度目のリーダーセミナーへの参加となった。講義やワークの内容自体は昨年に参加した時とほぼ同じであったが、その学びをどう捉えるかは昨年とは大きく違った。昨年は、それぞれのキャンパスごとの違いを知り、その違いから自分たちのキャンパスの強みや弱みに気付くというのが精一杯であった。当時“回生代表”というポジションにいながら、あまり“リーダー”としての学びには到達できなかったのである。しかし今年は、回生代表として過ごした一年間もあったおかげか、本来自分が身に付けたいと考えていた「リーダーという立場から行う組織運営の方法」についての学びを深めることができた。そして数多く得た学びの中でも、私は特に「メンバーの活動に対するモチベーションの向上を図ること」に力を入れたいと考えている。今後、セミナーでの学びを元に、さらに自身でも学び続ける姿勢を持ち、センターの組織運営を行っていきたい。

延安 美菜

(文学部 哲学科 1年次生)

ユースビジョン1日目は最初に自己紹介、各

大学のボランティアセンターの紹介を行った。他の大学のことを聞く機会は今まであまりなかったもので、非常に新鮮であった。次に、ワークでは、自分の大学のセンターにおける悩みを他大学の学生スタッフと話し合い、お互いに改善策を考えたりした。自分が抱いていた悩みと似たような悩みを持った方や、センターの現状が異なることから全く違った悩みを持っている方もいた。交流会では、地元のお菓子やお土産を食べながら様々な方とセンターに対する悩みや活動内容について話したりした。2日目、リーダーシップ像を学んだ。またこの2日間で学んだことの中で、自分たちの大学に持ち帰り、活かしていきたいことを考えた。他大学の学生ス

タッフの方々と関わり、交流をすることで、視野や考え方の幅が広がった。そして、他大学のセンターを知ること、自分の大学のセンターの強み、弱みを改めて考えるととても良い機会となった。

4. 経費（深草分追加）

深草	参加費補助	15,000円
	交通費補助（上限2,000円7割）	1,850円
瀬田	参加費補助	20,000円
	交通費補助（上限2,000円7割）	4,380円
合計		41,230円

〈報告者：田川 智也〉

事業名	第4回学生ボランティアフォーラムにおける「アクションマーケット」へのブース出展
日時	2016年3月5日（土）18時～21時
場所	国立オリンピック記念青少年総合センター
実施主体	（独）国立青少年教育振興機構
参加人数	ブース来場者50名 学生スタッフ4名（フォーラム全体として147大学607名が参加）
企画メンバー	南山裕紀（政策2） 藤岡舞（経済2） 小川諒也（国文2） 藤村一樹（社会1）

1. 経緯・目的

ボランティアに携わる学生とその支援者が日本全国から集まるフォーラムに参加し、センターについて知ってもらう機会を作る。また、他大学ボランティアセンターのブースに話を聞きに行き、情報交換を行うことで、自分たちの活動について考え、今後の活動にいかしていく。

2. 概要

全国学生ボランティア交流見本市「アクションマーケット」にブースを出展し、当センターおよび学生スタッフの活動紹介を行った。事前に日常の様子を写真などで紹介した模造紙や紹介動画などを制作した。当日はさらに年次報告書、リーフレットなども使い、活動を紹介した。また、他大学ボランティアセンターのブースへ足を運び、交流、意見交換を行った。

3. 参加者の声・得られた効果など

- ・ボランティアセンターの形は大学により多様で、それぞれの組織ができた背景をもとに活

動を行っていることを知ることができた。これによって、自分が持っていたボランティアセンターの概念が大きく広がり、今まで以上に広い視点でボランティアを考えられるようになった。

- ・他大学の学生、センターと情報交換を行う中で、自分たちの活動をどのようにPRしていくのか、またボランティアの魅力をどうすれば伝えられるのかという共通した課題があることが分かった。
- ・本学では職員ではなく学生がコーディネートを行うということや、瀬田キャンパスで行っている「Let's ボランティア」、深草キャンパスで行っている渉外班の活動が他大学の学生には珍しく、興味・関心を持ってもらった。
- ・学内で活動しているだけでは気付けないこと、たとえば、活動人数が多く、恵まれた活動環境があるということ、全国から集まった他大学の学生スタッフと交流、意見交換することで知ることができた。また、他大学の学生スタッフや職員の方へ自分たちの活動を

紹介するときに、活動への共感や励まし、エールをもらい、共に活動する仲間意識を感じることができた。今後遠く離れた仲間が頑張っていることを意識することで、力を得ることができると思う。

4. 学んだこと、今後の課題

今回、知ることができた知識や情報、思いを、参加していない学生スタッフに伝え、日常の活動の中で反映させていくことが大切だと考えている。できた繋がりについても今後の活動に活かしていけるよう取り組みたい。

5. 経費

交通費補助(上限1,000円7割) 4名分 4,000円

〈報告者：南山 裕紀〉



事業名	飛び出せ龍大！ ～ボラセン同好会うちらボラセンめっちゃ好きやねん～ (他大学ボランティアセンター訪問)
実施日、場所	2016年1月13日(水) 瀬田ボランティア・NPO 活動センター訪問 2016年1月15日(金) 事前学習 深草キャンパス 2016年2月10日(水) 立命館大学 OIC キャンパス、サービスラーニングセンター訪問 2016年2月15日(月) 佛教大学紫野キャンパス 社会連携センター学生ボランティア室 2016年3月24日(木) 事後学習 深草キャンパス
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター (深草)
参加人数	20名
企画メンバー (学生スタッフ)	中北 梢 (文学3) 申 祐季 (政策3) 白土奈央 (法学3) 福井貴登 (経済3) 藤原恵太 (文学3)

1. 経緯・目的

私たちは、普段の活動の中で、自分たちの活動を客観的に見る機会が少ない。また、深草キャンパスの学生スタッフの所属人数の多さ(2016年1月現在71名)により、必ずしも全員が関わらなくとも組織の運営が成り立つという状況にあり、現状に満足してしまうという課題が以前から挙げられていた。

そこで、改めて学生スタッフとしての意識づくりをするために、

1. 各回生が上回生へとなくなっていく中で役割が変わることに気づく。
2. 他大学のセンターとの違いから私たちのセンターの長所や短所を学ぶ。
3. これからの活動の目標を立て、活かす。

この3つを目的として、他大学のボランティアセンターへのツアーを計画した。

センター運営の向上のために、他大学のボラ

ンティアセンターとの交友関係も大切にしたい。このツアーでの交流を通して、協力していただいた他大学にもメリットとして、①その大学の特徴(長所又は弱み)に合わせたテーマでのワークでの学び、②ボランティアセンター同士の繋がりやきっかけ作り、③異なる環境下での価値観の共有、が挙げられる。

2. 概要

(1) 事前学習 (全体会)

- 1) 事前学習 (学生スタッフ40名参加)
センターの歴史などを再度学び直した。また、訪問する大学、及びボランティアセンターの基本的事項を学ぶ。
- 2) 瀬田センターへの訪問 (1/13コアメンバー参加) 普段のシフトや事務作業の見学等。

(2) 当日 (分科会)

- 1) 自己紹介、アイスブレイク (30分)

初対面の相手とのワークをより深めるために、打ち解けあい、和やかな雰囲気を作る。

2) 各大学のセンター紹介 (10分)

3) ワークショップ (ワールドカフェ方式)

○ワーク① (60分)「背景、理由、現状を知る」

- ・なぜ学生スタッフになったのか。
- ・どのように活動してきたのか。
- ・現在、どのようなセンターなのか。

○ワーク② (60分)「主体になるってどういうこと」

- ・どのような先輩になりたいのか。
- ・どのようなセンターにしていきたいのか。
- ・それぞれの問いかけに対して、学生同士で考え、意見を共有する。

→各大学により考え方や運営の仕方は異なるが、「センターを盛り上げたい」という気持ちは同じである。まず参加者にはその気持ちに気付いてもらう。次にそれぞれの価値観を認め合い話し合う中で、長所や改善点を明確化することで今後の活動に活かす。

4) 交流会

フリートーク(一日を通しての感想や質問等)

※センター見学会含む

(3) 事後 (全体会)

1) アフターワーク

各大学訪問で得たこと、考えたことなどを共有。

2) 各大学へお礼

このような機会を作って頂いたことへのお礼と、学生スタッフの感想、意見を送る。

3. 参加者の声・得られた効果など

(1) 参加した学生の声

質問. 外部と関わることに魅力を感じることが出来ましたか？

→魅力を感じることが出来た。

- ・他大学の学生と関わるはじめての一步として、取り組みやすかった。
- ・他大学の学生から異なった価値観やそれぞれのセンターの運営について学ぶことができ、刺激を受け、ボランティアの新たな魅力を発見することができた。
- ・今回の企画を通じて、新たな目標を立てることが出来た。
- ・上回生として長くセンターに在籍しているので、外部に出て、見聞を広めることはセンター

に新しい風が吹くと感じた。

→魅力を感じることが出来なかった

- ・外部と関わることは大事だと感じたが、他大学とは状況が違っても感じた。
- ・外部と関わるのは違う機会でもできると思った。
- ・以前から外部の団体、学生と関わっていたため、この企画を通して改めて学ぶことはなかった。
- ・他大学にも特色や良い点はあると思ったが、当センターの良い点の方が上回っており、自分にプラスになる要素が見つけれなかった。
- ・企画自体にあまり参加出来ず、評価すること自体が困難である。

(2) 得られた効果

- ・外部と関わるきっかけ作り。
- ・他大学と当センターとの比較で、長所や短所を学ぶ。
- ・この企画を通して学んだことから、自分にとっての目標立てをする。
- ・新スタッフも他大学の学生と積極的に意見を交わし、経験を積む。
- ・上回生としての意識作り。
- ・他大学との横の繋がり。
- ・外部との関わりに魅力を感じることが出来た人たちがいる一方で、そう感じる事が出来なかった人たちがいる。

4. 反省点

(1) 他大学訪問日決定が遅い

- ・代替わりや試験日程の時期と重なり、円滑に連絡が取れず、他大学から返事がなかなかもらえなかった。
- ・訪問大学や日程が決定するまで、ミーティングがワークの内容になり、中だるみした。
- ・学生スタッフの参加人数が少なかった。
- ・当企画の詳細をどこまで決めて、他大学に連絡をとるかの判断が難しかった。

(2) ワークが難しい

- ・ワールドカフェ方式が上回生向きで少し難しかった。
- ・外部と関わることに魅力を感じることが出来たが自分のことと結びつけて目標立てをすることが難しかった。
- ・長所や短所を学ぶことはできたが、上回生としての意識作りに関してのアプローチが弱かった。

5. 学んだこと・今後の課題

- (1) 日程を早く決定し、連絡をこまめにとる
 - ・大学に依頼する日を早めにきめて連絡する。
 - ・代替わりや試験日程を考慮して、開催日程を決める（春休みより夏休みがよいようだ）。
 - ・他大学の現状を踏まえて、相談しながらワークの内容や当日の運営を決定する。
- (2) 理解しやすいワークを実施する
 - ・事前学習を講義形式から参加型にする。
 - ・新スタッフが多く、人数が少ない場合ワールドカフェ方式は避ける。
 - ・他大学で学んできたことを生かし、目標立てをすることが難しかったので、そこに至るまでの過程を工夫する。
 - ・目的の一つであった「上回生としての意識作り」

へのアプローチが弱かったので、改善する。

6. 経 費

交通費補助（上限1,000円7割） 10,592円

〈報告者：中北 梢〉

